

第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 川上 健治

1. 単元名 分かりやすい！探しやすい！動物の赤ちゃん図鑑をつくろう！

2. 教材名 どうぶつの赤ちゃん

3. 単元目標

- ・自分で決めた動物の赤ちゃんの図鑑を進んで読んだり、情報を収集したりしている。
- ・ライオンとしまうまの特徴やその違いなどを比べながら大体の内容を読むことができる。
- ・自分で決めた動物の赤ちゃんについて集めた情報を基に、順序立てて説明文を書くことができる。
- ・互いの話に関心をもち、質問したり、共感したり、感想を言ったりなどして話をつなぐことができる。

4. 指導にあたって

本学級の児童は、自分の思いをみんなの前で話す経験を積ませるためにペアトークやグループトークを1学期から多く取り入れてきた。しかし、考えの理由や根拠を話し合わせると、友だちの考えを聞くだけで納得をしまったり、考えを言ったあとはお互いに黙り込んで話が続かなかつたりすることが多々あった。従って、2学期からは、話し合いをする際に、「グループトーク攻略本」と称したグループトークの流れを班長に渡し、型を決めグループトークを行ってきた。流れに沿って話し合いができるようになったものの、自分の意見を言い放しで、友だちの伝えたいことを聞かなかつたり、質問や感想を全員が考えて話をつなげられなかったりしてきている。説明文の学習では、「うみのかくれんぼ」で、文と文とのつながりを意識しながら順序立てて文章を書くことを目標に学習した。この学習を通して、文と文にはつながりがあり、順序立てて書く必要があることに気付くことができた。しかし、自分で調べて書くとすると、「体の特徴」を探せなかったり、探せても「体の特徴」と「隠れ方」をつなげて順序立てて書けていなかったりなど、書こうとする題材に必要な事柄を集め、自分の考えを順序立てて文章に書くことが困難であるという課題も見つかった。

そこで、本単元では、「分かりやすい！探しやすい！動物の赤ちゃん図鑑を作ろう」という説明文を書く活動を設定した。この活動は、説明文を書くにあたって自分で決めた動物の赤ちゃんの情報を取捨選択して収集する経験ができた、その収集した情報を基に、自分の考えを順序立てながら文章を書くことができた、もする。その為に、「どうぶつの赤ちゃん」の教材を使い、学習を積み上げていく。「どうぶつの赤ちゃん」は、校外学習時でも実際に見たライオンやしまうまの様子や大きくなっていく様子などが書かれており、児童にとって興味を掻き立てられるものである。また、肉食動物であるライオンと草食動物であるしまうまという対照的な動物の赤ちゃんの様子を説明しているので、比較しながら読み取りを行える。そして、比較する二つの事例は、決まった観点に沿って順序立てながら赤ちゃんの様子が書かれているので、説明文の書き方の見本ともなる。従って、自分で収集した情報を基に、事柄の順序に沿って説明文を書く学習に広げていくのにも適した教材と言える。

指導にあたっては、第一次で、まず王子動物園で見学した様々な動物の赤ちゃんの生まれたばかりの様子を想起させたり、写真を見せたりして興味をもたせた後、1日体験入学に来た年下の子に見てもらおうという目的の基、「分かりやすい！さがしやすい！動物の赤ちゃん図鑑を作ろう」という課題を与える。第二次では、本教材「どうぶつの赤ちゃん」を読み取っていく。本教材は、冒頭の問題提起に対して、以下の段落で、①生まれたときの大きさ②目や耳の様子③親との比較④移動能力⑤お乳を飲む期間⑥自分で食べ物をとって食べる時

期という順序で説明が展開されている。従って、まずはライオンの赤ちゃんの部分でこの6つの観点を一つひとつ読み取りながら進めていく。その後、同じ観点で書かれているしまうまの赤ちゃんをライオンと比較しながら読み取っていく。第三次では、自分が興味のある動物の赤ちゃんについて調べ、図鑑を作るために各自が説明文を書いていく。ただ図鑑を作るだけでなく分かりやすく、探しやすい図鑑を作る為に、調べる動物をグループ分けする必要があることに気が付かせる。グループ分けは、6つの観点の中から「移動能力」で「ライオンタイプ」と「しまうまタイプ」の2つのタイプがあるとした上で、「肉食動物はライオンタイプ、草食動物はしまうまタイプにあてはまるだろう」と予想をたてる。次に、自分たちでたてた予想があっているかを話し合う。そして、予想を確かめた上で、各自好きな動物の赤ちゃんについて調べ、説明文を書いていく。本時では、クラスでたてた予想があっているかどうかを話し合う場面を設定している。前時に調べる動物を4つ（きりん・ぞう・トラ・パンダ）に絞り、各班（3人か4人班）で一人1つずつ別の動物を調べさせる。その後は、「ライオンタイプ」と「しまうまタイプ」のどちらのタイプかとそれを裏付ける理由を、同じ動物について調べるグループ同士で協力してワークシートに書かせた上で班毎での話し合いに臨ませる。そうすることで、個人間の学力差を埋められ、班毎での話し合いをスムーズに行えるであろう。また、本時まで、班で自分一人しかその動物を調べていない状況をつくったり、班の中に一人だけ予想と反する動物（パンダ）を調べさせたりする手立てをしてきた上で、本時では、自分たちがたてた予想があっているかを話し合うという目的をもたせる。これらの手立てをすることで、より質問や共感ができたり、感想を言うことができたりして、活発な話し合いになると考える。

5. 指導計画（全12時間）

	学習の流れ	指導上の留意点
第一次 1h	1) 学習の見通しをもつ。 ・第三次で図鑑づくりをすることを知る。 ・教師の範読を聞き、初発の感想を交流する。	・校外学習時の写真等を見せ、興味を促す。 ・「おもしろかった・不思議に思った・驚いた」の3つの観点で感想をもてるようにする。
第二次 4h	2) 3) ライオンの赤ちゃんの様子を読み取る。 4) しまうまの赤ちゃんの様子について一人学びをする。 5) しまうまの赤ちゃんの様子について読み取ったことを全体で交流する。	・2つの問いに対応する答えはどこかを付箋を使ったり、線を引いたりして視覚化する。 ・ライオンの赤ちゃんの様子をクラス全体で読み取ったときと同様の付箋を使ったり、線を引いたりして読み取らせる。 ・全体で交流する際は、ライオンの赤ちゃんの様子と観点ごとに比較しながら確認していく。
第三次 7h	6) ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子を比べ、なぜ両者は様子が違うのかを考える。 7) 8) 動物の赤ちゃんのタイプについての根拠を調べる。 9) 調べた赤ちゃんがどちらのタイプだったのかを交流する。 【本時】 10) 11) 好きな動物の赤ちゃんの様子について調べ学習をし、説明文を書く。 12) 書いた説明文を見合い、お互いに感想を言い合う。	・次時に目的意識をもって調べ学習ができるように、クラスとしての結論を出しておく。 ・調べている4種類の動物の赤ちゃんはライオンかしまうまかのどのタイプに当てはまるかを予想させてから取り組ませる。 ・自分のたてた予想と根拠をワークシートに書かせておくことで、話しやすくさせる。 ・整理するために、6つの観点に分けたワークシートに沿って調べさせていく。 ・ギャラリーウォークをして、クラス全体で交流させた後に、図鑑を作る。

6. 本時の学習について

(1) 本時の目標

- ・互いの話に関心を持ち、質問したり、共感したり、感想を言ったりなどして予想があっていたかどうかを話し合うことができる。

(2) 本時の展開 (9 / 12時)

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点☆評価 (方法)
1. 前時までの振り返りをする。	○前時の振り返りをしましょう。 ・肉食動物は「ライオンタイプ」で草食動物は「しまうまタイプ」という予想をたてていました。	・前時にいなかった先生方に分かるようにという目的のもと説明をさせる。
よそうはあっていた？		
2. 自分の調べてきたことを伝えあう。 ・グループトーク ・全体交流	○グループトークをしましょう。 ・きりんは産まれて20分ちょっとで歩けるみたいだよ。 ・ゾウは産まれてすぐに歩けるよ。 ・トラは肉食動物で、2kgで生まれ、歩くのにも2ヶ月くらいかかるのでライオンタイプだ。 ・パンダは草食動物なのに○○さんが言ってくれたトラと同じで歩くのに2ヶ月くらいかかるそうだよ。 ○班で話し合ったことを発表しましょう。 ・よそうはあっていました。わけは、4つのうち3つが予想通りの結果だったからです。 ・予想は間違っていました。パンダは草食動物だけどライオンタイプだったからです。	・班長が中心となって「グループトーク攻略本」を見ながら話し合いを進めさせる。 ・言い放しで終わらずお尋ねまでできるように机間巡視で支援する。 ・班で1つの結論を出す際には、結論を裏付ける理由をしっかりと書くように促す。 ・話し合いの途中で、困っていることはないかを尋ねる。 ☆互いの話に関心を持ち、質問したり、共感したり、感想を言ったりなどして予想があっていたかどうかを話し合うことができる。(発言・ワークシート)
3. まとめをする。	○今日のまとめをしましょう。 ・外れているものもあったけれど、大体は予想通りでした。	・書きにくい子の為に、書けた子から発表をさせ、参考にさせる。
4. 振り返りを書く。	○今日の振り返りを書きましょう。 ・○○さんの意見が分かりました。 ・○○さんのおかげで、自分の予想もあっていることが分かって安心することができました。 ・○○さんのおかげで、草食動物でも、ライオンタイプがいるということが分かりました。	・友だちの意見のおかげで考えが深まったということを実感させるために、友だちの意見を基に、振り返りを書かせる。

